



講座のアピールポイント

本講座はリウマチ・膠原病など自己免疫疾患を中心に臨床免疫の研究をおこなっています。

自己免疫疾患とは、病原体などの異物を敵と認識し排除する免疫系が、誤って自分自身を異物と認識し攻撃するために起こる疾患です。リウマチを含む膠原病は自己免疫疾患です。症状は患者ごとに異なり多彩で、しばしば重篤化します。そのため患者ごとに病態にあった治療をおこなうことが重要です。

本講座はリウマチ・膠原病のより良い治療（患者ごとに最適化した治療）の開発をめざし、発症機序など基礎的な研究から臨床像の解析などの臨床研究、および両者をつなげる臨床検体などを用いた病態の解明・その病態を反映する指標の検索などの橋渡し研究をおこなっています。これら研究は学内・学外の研究者と協力して実施しています。また、新たな治療法の治験にも積極的に参加しています。これらの成果は国内および海外の学会などで発表し、論文としています。

本講座は特に膠原病の難治病態である呼吸器病変（間質性肺炎など）・血球貪食症候群などの病態の解明・治療法の開発に力を入れ、基礎的研究から臨床研究までおこなっています。

また、リウマチ・膠原病診療にあたっては医療スタッフ、各科、地域医療機関および患者との連携が大切であり、勉強会・講演会などを実施するとともに、地域での共同研究を企画しています。

講座研究紹介

本講座は膠原病患者に合併する難治病態、特に肺病変の研究に力を入れています。

関節リウマチに合併する肺病変の進展経路をCTの解析より明らかにしました。同時に間質性肺炎発症に気道病変が関与する可能性を示し、現在、動物モデルを用い詳細な機序を解析中です。将来、間質性肺炎の予防につながる可能性がある重要な研究です。また、間質性肺炎の進展・急性増悪の危険因子についての同定をおこなっています。

筋炎に合併する間質性肺炎は急激な悪化を認めることがあり、その予測因子の同定などを行ってきました。その中でも、とくに急速に悪化しやすい、抗MDA5抗体陽性筋炎間質性肺炎のサイトカインの解析をおこない、複数のサイトカイン産生が亢進していることを見出しました。これらの患者に、複数のサイトカインを同時に阻害するJAK阻害剤を使用し救命できることを世界で初めて報告しました。JAK阻害剤の有用性は世界中で検証されており、難治性筋炎合併間質性肺炎の新たな治療法となる可能性があります。しかし、これら治療にも関わらず、予後不良患者は存在しております。現在、患者の解析とともに動物モデルを作成し、難治性筋炎合併間質性肺炎の新たな治療法の開発を目指しております。

他に膠原病合併血球貪食症候群、関節リウマチの予後因子、免疫系伝達分子に対する自己抗体などについての研究も行っています。

患者がより良い生活が送れるようにするために、本講座は臨床現場で抱いた疑問、問題点の解決するため臨床的研究のみならず基礎的研究を含めた総合的アプローチを行い、疾患病態研究とメカニズムの解明を目指していきます。